

臨床研修医 募集のご案内

Clinical Training Doctor



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

さいたま赤十字病院

さいたま赤十字病院 概要

所在地

〒330-8553

埼玉県さいたま市中央区新都心1-5

TEL 048-852-1111 (代)

FAX 048-852-3120

<https://www.saitama-med.jrc.or.jp>

施設の概要

■ 敷地面積	14,001.33 ㎡
■ 建物面積	8,877.53 ㎡
■ 延床面積	67,333.33 ㎡
■ 許可病床数	638 床

沿革

昭和 9年	日本赤十字社埼玉支部療院創立 77床
昭和 18年	与野赤十字病院に改称
昭和 22年	大宮赤十字病院に改称
昭和 47年	臨床研修病院に指定
昭和 55年	新本館診療棟及び埼玉県救命救急センター完成 増床使用許可 643床
平成 5年	与野市市民床 15床 承認
平成 11年	災害拠点病院に指定
平成 13年	救命救急センター病床再編成
平成 14年	結核病床 38床廃止 許可病床 605床
平成 15年	大宮赤十字病院から、さいたま赤十字病院に名称変更
平成 17年	地域がん診療拠点病院に指定
平成 23年	地域周産期母子医療センターに指定
平成 23年	地域医療支援病院に指定
平成 25年	日本医療機能評価機構認定 (3rdG : Ver.1.0)、 付加機能救急医療機能 (Ver.2.0)
平成 29年	病院新築移転 (さいたま新都心) 許可病床 632床
〃	総合周産期母子医療センター指定 (県内2か所目)
〃	高度救命救急センター指定 (県内2か所目)
平成 30年	精神科身体合併病床 6床 許可病床 638床
令和 2年	日本医療機能評価機構認定 (3rdG : Ver.2.0)、 高度・専門機能:救急医療・災害時の医療 (Ver.1.0)
令和 2年	基幹災害拠点病院指定

理念

赤十字の人道・博愛の精神に基づき、
信頼される医療をおこないます。

基本方針

1. 患者さんの権利を尊重します。
2. 地域との円滑な医療連携に努めます。
3. 医療の質の向上に努め、安全な医療を提供します。
4. 優れた医療人の育成に努めます。
5. 健康経営を推進し、働きやすく活気あふれる職場
作りに努めます。
6. 国内及び国外での医療救援活動に積極的に参加
します。

特色

地域における高度急性期病院の役割を果たし、埼玉県内2か所目となる高度救命救急センターや小児医療センターと合同で総合周産期母子医療センターを有するほか、災害拠点病院として地域に密着した医療を推進しております。

また、健診センター等の施設も整備し、皆様の健康管理に努めるとともに、他の医療機関との連携を図った急性期医療を展開し、地域に根差した医療を提供しております。

施設の指定等

- 基幹型臨床研修指定病院
- 高度救命救急センター
- 地域医療支援病院
- 日本医療機能評価機構認定病院
- 赤十字医療救護班 4個班常備
- 基幹災害拠点病院
- 総合周産期母子医療センター
- ドクターカーによる診療（県内初24時間365日）
- 地域がん診療連携拠点病院
- 埼玉DMAT指定病院
- 各種学会認定専門医制度の指定・認定（専門医等教育病院等学会の指定状況）



ER 入口



手術室



ドクターカー

専門医等教育病院等学会の指定状況

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 日本内科学会（教育病院） | 日本皮膚科学会（専門医研修施設） |
| 日本外科学会（外科専門医制度修練指定施設） | 日本整形外科学会（研修施設） |
| 日本産科婦人科学会（研修施設） | 日本眼科学会（基幹研修施設） |
| 日本泌尿器科学会（基幹教育施設） | 日本脳神経外科学会（研修施設） |
| 日本麻酔科学会（認定病院） | 日本病理学会（認定施設） |
| 日本救急医学会（救急科専門医指定施設） | 日本救急医学会（指導医指定施設） |
| 日本消化器病学会（基幹研修施設） | 日本循環器学会（研修施設） |
| 日本呼吸器学会（認定施設） | 日本血液学会（研修施設） |
| 日本腎臓学会（基幹研修施設） | 日本神経学会（教育施設） |
| 日本消化器外科学会（専門医修練施設） | 日本呼吸器外科学会（連携施設） |
| 日本リウマチ学会（教育施設） | 日本消化器内視鏡学会（指導施設） |
| 日本大腸肛門病学会（認定施設） | 日本集中治療医学会（専門医研修施設） |
| 日本透析医学会（認定施設） | 日本脳卒中学会（認定研修教育病院） |
| 日本臨床細胞学会（認定施設） | 日本肝胆膵外科学会（修練施設 A） |
| 日本乳癌学会（認定施設） | 日本呼吸器内視鏡学会（認定施設） |
| 日本手外科学会（基幹研修施設） | 日本緩和医療学会（認定研修施設） |
| 日本外傷学会（専門医研修施設） | 日本耳鼻咽喉科学会（研修施設） |
| 日本病態栄養学会（栄養管理・NST実施施設） | 日本がん治療認定機構（認定研修施設） |
| 日本周産期・新生児医学会（母体・胎児基幹認定施設） | 日本超音波医学会（専門医研修施設） |
| 日本胆道学会（指導施設） | 日本肝臓学会（認定施設） |
| 心臓血管外科専門医認定機構（基幹施設） | 日本心血管インターベンション治療学会（研修施設） |
| 日本口腔外科学会（専門医制度准研修施設） | 呼吸療法医学会（専門医研修施設） |
| 日本高血圧学会（研修施設） | 日本膵臓学会（指導施設） |
| 日本不整脈心電学会（不整脈専門医研修施設） | 日本臨床腫瘍学会（認定研修施設） |
| 日本腹部救急医学会（腹部救急認定医・教育医制度認定施設） | 日本女性医学会（認定研修施設） |
| 日本糖尿病学会（認定教育施設） | |

研修施設概要

院 長	清田 和也
副院長	甲嶋 洋平
	富岡 俊也
	高橋 俊栄
臨床研修責任者	甲嶋 洋平
臨床研修指導医	60 名

プログラムの目的

臨床研修の基本理念に基づき、幅広い医学の基礎を修得させることにより、将来専門とする分野にかかわらず、患者の健康と疾病について適切に対応できるように研修医の育成を行うことを目的とする。

プログラムの特徴

- 平成 22 年度から研修医制度の一部見直しが図られ、必修科目が一部削減されたが、臨床研修の基本理念を重視し、厚生労働省の到達目標を達成するために、従来の必修科目をすべて含むプログラムである。
- 高度救命救急センターを併設しており、救急医療に関してより実践的な研修をおこなうことができる。
- 選択研修期間については 40 週あり、可能な範囲で研修医の希望に沿って選択科目、期間を決めることが可能である。



診療科及び概況

診療科名	医師数 (常勤)	1日平均 入院患者数	1日平均 外来患者数
肝・胆・膵	5	18.7	61.3
消化管内科	7	18.0	80.5
呼吸器内科	16	65.3	130.6
血液内科	5	34.1	45.8
糖尿病内分泌内科	4	5.0	40.7
膠原・リウマチ内科	3	6.1	32.3
腎臓内科	4	8.7	40.9
腫瘍内科	1	0	13.9
総合臨床内科	1	5.7	7.2
精神科	2	0	17.2
脳神経内科	5	22.6	35.9
循環器内科	21	55.8	152.6
心臓血管外科	5	11.4	16.6
小児科	4	9.3	21.8
外科	12	38.6	58.7
乳腺外科	4	14.7	77.0
整形外科	15	73.3	104.7
脳神経外科	4	19.7	21.0
呼吸器外科	2	5.2	15.7
皮膚科	4	3.7	41.6
泌尿器科	4	13.0	63.5
救急科	37	57.9	13.1
産婦人科	14	44.8	97.5
眼科	8	18.2	72.6
耳鼻咽喉科	3	4.9	40.4
放射線診断	5	0	0
放射線治療	2	0	48.6
麻酔科	13	0	19.2
形成外科	3	5.0	13.6
緩和ケア	1	0	0.2
口腔外科	3	2.1	57.1
リハビリ	1	0	0
ER科	0	0	12.5
病理診断科	4	0	0
検査部	1	0	0
健診部	1	0	0
計	224	561.8	1454.3

(医師数は令和 6 年 4 月現在、入院・外来患者数は令和 5 年度の数値となります)

さいたま赤十字病院臨床研修プログラム

1 年次	内科 (24 週)			外科 (8 週)	選択必修 (4 週) ※ 1	救急 (12 週) ※ 2	小児科 (4 週)
2 年次	産婦人科 (4 週)	精神科 (4 週)	地域医療 (4 週)	希望選択 (40 週) ※ 3			

※1 選択必修は以下10診療科より1診療科を選択します。

■外科 ■乳腺外科 ■呼吸器外科 ■整形外科 ■心血管外科 ■脳神経外科 ■泌尿器科
■眼科 ■耳鼻咽喉科 ■形成外科

※2 救急科 12 週のうち、4 週は麻酔科選択が可能です。

※3 希望選択にて選択することができる研修診療科目は以下のとおりです。

■消化器内科 ■呼吸器内科 ■血液内科 ■糖尿病内分泌内科 ■膠原病リウマチ内科 ■腎臓内科 ■総合臨床内科
■腫瘍内科 ■脳神経内科 ■循環器内科 ■精神科 ■小児科 ■外科 ■乳腺外科
■呼吸器外科 ■整形外科 ■脳神経外科 ■心血管外科 ■皮膚科 ■泌尿器科 ■産婦人科
■眼科 ■耳鼻咽喉科 ■形成外科 ■リハビリテーション科 ■放射線科 ■麻酔科 ■緩和ケア診療科
■病理診断科 ■検査部 ■救急科

研修スケジュール (例)

		1～4週	5～8週	9～12週	13～16週	17～20週	21～24週	25～28週	29～32週	33～36週	37～40週	41～44週	45～48週	49～52週
1年次	研修医 A	内科系 (消化器)	内科系 (総合)	内科系 (呼吸器)	小児科	内科系 (循環器)	内科系 (循環器)	外科	外科	心血管 外科	内科系 (神経内科)	産婦人科	救急部	救急部
	研修医 B	内科系 (糖尿病)	内科系 (血液)	救急部	救急部	救急部	内科系 (総合)	外科	外科	外科 (脳神経外科)	内科系 (循環器)	内科系 (循環器)	内科系 (循環器)	精神
	研修医 C	外科	外科	乳腺外科	内科系 (血液)	小児科	精神	内科系 (総合)	内科系 (呼吸器)	産婦人科	小児科	麻酔科	救急部	救急部
	研修医 D	内科系 (循環器)	内科系 (循環器)	内科系 (消化器)	内科系 (総合)	精神	救急部	救急部	麻酔科	内科系 (腎臓)	外科	外科	外科	外科 (脳神経外科)
		1～4週	5～8週	9～12週	13～16週	17～20週	21～24週	25～28週	29～32週	33～36週	37～40週	41～44週	45～48週	49～52週
2 年次	研修医 A	救急部	地域医療	整形外科	病理部	内科系 (血液)	精神 血液	麻酔科	検査部	形成外科	内科系 (糖尿病)	放射線 断科	内科系 (腎臓)	内科系 (神経内科)
	研修医 B	内科系 (神経内科)	産婦人科	小児科	地域医療	皮膚科	外科 (選択)	血液 精神	麻酔科	麻酔科	整形外科	心血管 外科	形成外科	小児科
	研修医 C	産婦人科	内科系 (呼吸器)	内科系 (膠原病)	地域医療	血液 精神	内科系 (呼吸器)	緩和ケア 診療科	内科系 (血液)	放射線 断科	内科系 (総合)	内科系 (循環器)	麻酔科	内科系 (呼吸器)
	研修医 D	眼科	麻酔科	外科 (脳神経外科)	精神 血液	内科系 (循環器)	緩和ケア 診療科	皮膚科	地域医療	麻酔科	小児科	内科系 (糖尿病)	眼科	内科系 (膠原病)

なお、診療科目及びスケジュール等により、希望に沿えない場合があります。

臨床研修協力施設

地域医療プログラム及び精神・保健プログラムについては、下記の臨床研修協力施設において研修プログラムに基づいた臨床研修を行います。

地域医療 (4週)	
原町赤十字病院	群馬県吾妻郡東吾妻町大字原町 698
公設宮代福祉医療センター	埼玉県南埼玉郡宮代町大字須賀 177
すこやか内科クリニック	埼玉県さいたま市中央区鈴谷 5-3-12
あきもと内科クリニック	埼玉県さいたま市中央区新中里 1-3-3 埼玉大通りメディカルビル2F
しおや消化器内科クリニック	埼玉県さいたま市中央区本町東 3-3-3

※ 2020 年度より訪問診療研修が必須のため原町赤十字病院にて研修

小児科 (4週)	
埼玉県立小児医療センター	埼玉県さいたま市中央区新都心 1-2
精神科 (4週)	
埼玉精神神経センター	埼玉県さいたま市中央区本町東 6-11-1
小川赤十字病院	埼玉県比企郡小川町小川 1525
選択科目	
自治医科大学附属 さいたま医療センター	埼玉県さいたま市大宮区天沼町 1-847
特別養護老人ホーム ナーシングヴィラ与野	埼玉県さいたま市中央区本町東 6-10-1
埼玉県赤十字血液センター	埼玉県さいたま市見沼区深作 955-1
埼玉県内保健所	埼玉県内

令和7年度採用 さいたま赤十字病院 臨床研修医募集要項・処遇

出願資格	マッチングシステムに参加登録する者で、(1) または (2) に該当する者 (1) 第119 回医師国家試験を受験する予定の者 (2) 医師国家試験に合格している者		
募集人員	15名	選考方法	■書類審査 ■筆記試験 ■面接試験
選考日及び場所	日時：令和6年8月6日(火)・7日(水)・9日(金) ※8月8日(木) 午前を予備日とする 場所：さいたま赤十字病院 会議室 多目的ホール ※応募人数により選考日が縮小となる可能性があります		
出願手続き	(1) 出願方法		(2) 出願に必要な書類・手続き
	①郵送による出願 出願書類を一括して封筒に入れ、書留郵便やレターパック等、記録の残る方法にて提出。 ※令和6年7月8日(月) 消印有効  ※郵送手続きと併せて必ず ホームページ掲載の「出願 フォーム」へ必要事項を ご登録ください。 ②出願締め切り期日:令和6年7月8日(月) ③担当窓口及び宛先 〒330-8553 埼玉県さいたま市中央区新都心1-5 さいたま赤十字病院 人事課教育研修係 【TEL】 048-852-1572 【E-mail】 kensyu@saitama-med.jrc.or.jp		①～④の対応を漏れなくお願いします。 ①選考試験願書 ②成績証明書(厳封) ③卒業見込証明書または卒業証明書 ④ホームページ掲載の「出願フォーム」に必要事項を記入の上、登録をお願いします。 ※①～③は郵送にて出願をして下さい ※願書の様式は当院HPよりダウンロードして下さい
		(3) その他	出願書類を受取後、7月16日(火)以降に当院にて選考日を記載した受験票を本人に通知いたします。 なお、7月26日(金)を過ぎても到着しない場合は、人事課教育研修係までご連絡下さい。 ※状況により選考方法・日程が変更となる場合がありますので予めご了承願います。
身分	常勤嘱託		
給与に関する事項	給 与：1年次 月額 300,000円 2年次 月額 350,000円 *時間外手当・通勤手当等を該当者に支給 日・当直：研修医当直 月4回程度 *宿・日直手当は、当院の規程による 賞 与：1年次【冬】100,000円 2年次【夏】100,000円【冬】100,000円		
研修医の宿舎及び院内研修医室	■研修医宿舎 無*住居手当支給(当院規程による) ■院内研修医室 有		
勤務時間および休暇に関する事項	勤務時間：8:30～17:00(休憩45分) 休 日：土、日曜日・祝祭日・年末年始(12/29～1/3)・創立記念日 休 暇：有給休暇 労働基準法による 夏季休暇 3日間 その他休暇(嘱託・臨時職員およびパートタイマー就業規則による)		
社会保険・労働保険等に関する事項	健康保険・厚生年金・労災保険・雇用保険 あり		
健康管理に関する事項	年2回 定期健康診断の受診を行なう		
医師賠償責任保険に関する事項	病院にて加入、個人については任意とする		
学会の参加に関する事項	指導医のもと積極的に演題発表、参加を認める		
アルバイトに関する事項	臨床研修期間中は禁止とする		

病院のご案内

病院の基本方針

1. 病院のコンセプト

- 質の高い医療の提供
- 患者さんにとって便利で心地よい診療・療養環境
- 地域の医療・福祉機関との連携強化
- 研修体制の充実
- 柔軟性・拡張性のある設備計画

2. 病院が果たす役割

- 地域完結型医療の実現に向けて中核病院としての機能を整備
- 地域がん診療連携拠点病院として主要がんに対する急性期治療を強化し、集学的治療を実施
- 超急性期病院として救急医療・急性期医療に重きを置き、さいたま市を中心とした地域住民の安心、安全、健康な生活維持に貢献
- 埼玉県の災害拠点病院として災害に強い病院を整備するとともに、DMAT・赤十字救護班などとの連携を積極的に推進
- 教育・研修体制の充実により、医療人の育成・確保に努め、チーム医療が実践できる組織体制を構築

病院の特徴

1. 高度専門医療の提供

- (1) 総合周産期母子医療センター機能の整備
母体・胎児集中治療室（MFICU）の新設
- (2) 高度救命救急体制の充実
救命救急 ICU（EICU）と救急病棟の増床
ハイケアユニット（HCU）と脳卒中ケアユニットの新設

2. がん診療の充実

- (1) 最新放射線治療装置（サイバーナイフ等）や画像診断装置（PET－CT 等）を導入し、身体に負担が少なくかつ効率的な治療を実施
- (2) 外来化学療法室の拡充
- (3) がん相談機能の充実を図るため、がんサロンを整備

3. 災害医療への対応

- (1) 屋上ヘリポートの設置
- (2) ペDESTリアデッキに災害時のトリアージや治療スペースの確保
- (3) 非常時にも対応できる十分な資材備蓄・電源確保

4. 快適な療養環境づくり

- (1) 個室が多い病床編成
- (2) ベッドサイド医療のためのゆとりある新型4床室
- (3) 全てのベッドサイドに窓を設置し、採光や緑の眺望を確保

埼玉県立小児医療センターとの連携

1. 周産期医療

- | | |
|----------------|--|
| ■ さいたま赤十字病院 | ハイリスク妊産婦受入れのためのMFICUの新設
救命救急センターと連携し母体救命機能を整備 |
| ■ 埼玉県立小児医療センター | ハイリスク新生児受入れのためのNICU、GCUの大幅増床 |

2. 救急医療

- | | |
|----------------|---|
| ■ さいたま赤十字病院 | 高度救命救急センターとして救命救急医療機能を強化
病院前救護体制の強化・充実を図るための
救急ワークステーションの整備 |
| ■ 埼玉県立小児医療センター | 小児重症患者の受入れを行うPICUを整備 |

3. 施設の共同利用

2つの病院が隣接立地するメリットを生かし、病院の附属施設の共同利用



